

グランプリ

一家を笑顔にする庭と離れの改修

「6つの小さな離れの家」

ACID NATURE 乙庭 太田敦雄様



大家族の名残ある母屋と、かつて野菜屋だった店舗のある敷地の、建築と庭の改修事例です。

子世代が巣立ち、今では高齢のご夫婦が暮らす大きな母屋。道路には、今は閉めた店のシャッターが面し、時代の流れで、慣れ親しんだ家が現在の生活に合わなくなっていました。

敷地奥には、ご夫婦が長年かけて育ててきたツツジやモミジなど100本以上の庭木がありました。小さかった木々も今では大きく育ち、密接する木々の中に入っていく状態に。楽しかった庭木の手入れもご夫婦の負担になっていました。

そこで、親族一同で、心の拠り所であるこの実家と庭を、ご夫婦のために改修することになりました。ご夫婦が健康に暮らせる家と庭、折々につけ親族が楽しく集える家と庭への改修です。

一家の思い出が詰まった実家と庭。高齢のご夫婦にとっては、愛着ある我が家と庭木が丸つきり変わってしまうことは、精神的な負担も大きいことでしょう。

設計者として、生活環境の改善だけでなく、精神的な負担も軽い手法で、一家の絆や安らぎをより向上させる家と庭の空間にしたいと考えました。

本改修では、建築家と植栽家の協働で、「小さな操作で大きな改善を生み出す」ことを目指しました。建築では減築と小さな新築を行い、建物を母屋と「小さな離れ」群にして庭に点在させています。敷地全体を「庭に散らばった

部屋」のように巡り楽しめる建築計画。

植栽計画では、敷地奥部に密集する庭木を、回遊路を設ける形でいったん透かし、そこで抜いた木を一本も捨てることなく、「小さな離れ」を結ぶ動線に寄り添うように移植し、建築と植栽が一体となった空間にしました。

愛着ある庭木が一本もなくならずに新しい生活に合わせて配されたことで、ご夫婦にとっても心の負担が軽く、かつ、家や庭の在り方を刷新させる改修となりました。

建築にも植物にも「間」を作ること、家と庭・暮らしがふんわり心地よくつながりました。一家が慣れ親しんだ木々が寄り添う中、庭も家も区別なく

楽しめる生活。

風や光、そして緑と触れ合い、一家の笑顔がこぼれる空間に生まれ変わりました。



建築・植栽平面図



建築メディア、一条にて紹介された本件動画

審査員講評



理事長
高岡 伸夫

昔日本で生まれた縁側の暮らしが海外では、様式として中間領域の屋根のあるテラスリビングとして標準化しています。自然を取り込み、人との縁を建物と庭の接点を活かされた空間が素晴らしいと思います。昨今は新型コロナウィルスによる新しい生活様式が問われていますが、ストレスのない、心が和む、心地よい空間、そして人と自然がつながる建築と、庭と、中間領域の素晴らしいレイアウトやデザインだと思います。

庭屋一如、家と庭が一つにつながったような「庭と建物は一つの如し」という意味をまさに具現化したものです。庭と建物の調和がとれた素晴らしい生活空間です。これからのすべて、つながりというキーワードを時代のテーマとして注目されていますが、人、心、緑、住まい、庭の間、思い出などすべてをバランスよく、活かしつなぐ。これもまた感動の空間です。体内に溜まったストレス時間を自然の時間に戻せるガーデンセラピーとして評価の高いものだと思います。



1



4



3



2

1. 交流スペースとなった旧店舗の離れ
2. 遠路ができて明るく風通しのよい庭
3. 旧店舗の離れから冷蔵庫・母屋へ
4. 改修後の園路と母屋
5. 母屋・食器棚・葡萄酒庫の離れ

「6つの小さな離れの家」

植栽設計: 太田敦雄 / ACID NATURE 乙庭

建築設計: 武田清明建築設計事務所

写真1.3.5: ©masaki hamada(kkpo)



5